

# TargetLink Reloaded

Release 6.1 に同梱される量産コード生成ツール TargetLink の新バージョンでは、コードの効率性と AUTOSAR サポートを重視しています。生成されるコードはこれまで以上に効率的で、特にベクトル信号に関連する部分が強化されています。また、この新しいバージョンでは AUTOSAR 規格 2.1 と最新の The MathWorks Release 2007b をサポートしています。

## コード効率性の向上

TargetLink 2.3 では、量産アプリケーションのコードの効率性を最大限に高めることを特に意識しています。これまで高い効率性を実現していましたが、以下の最適化によりさらに強化されました。

- オプションで、ベクトル信号を処理するブロック用のコードを単一の命令文ではなくループとして生成することにより、ROM の消費量を大幅に削減することができます。TargetLink は同一の特性を持つベクトル部を識別し、指定したしきい値を超えた場合にループを作成します。
- アトミックサブシステムの境界で不必要な中間変数が生成されるのを防ぐため、コード最適化で適切な分析機能がサポートされるようになりました。
- タイムステップごとに個々のブロックを計算する必要性を分析するための手順が改良されました。これにより、条件によって実行される分岐に移動できるブロックが増え、実行時間が短縮されます。

## AUTOSAR 規格 2.1 のサポート

AUTOSAR の重要性向上に伴い、TargetLink 2.3 に以下の新機能が搭載されました。

- AUTOSAR バージョン 2.0 SP3 に加えて、AUTOSAR 2.1 をサポート (特に適合と計測に対応)
- AUTOSAR Runnable の実行中に ECU モードを切り替えるモード切り替えイベント
- 不要なスタック変数を除去して最適化することにより、送信側と受信側の暗黙的通信のコード効率性が向上

## MATLAB® の 4 バージョンを選択可能

TargetLink の有用な機能のひとつに、単一バージョンによる複数の MATLAB バージョンのサポートがあります。これによって以下が可能になり、ユーザに大きな利用効果をもたらします。

- MATLAB の複数バージョン (たとえば、異なるプロジェクト) で、TargetLink の同一バージョンを使用できます。
- 新しい TargetLink バージョンをインストールせずに MATLAB をアップグレードできます。
- 新しい MATLAB バージョンをインストールせずに、TargetLink をアップグレードできます。
- TargetLink 2.3 では、最新の 4 つのリリース、R2006a+, R2006b, R2007a+, R2007b をサポートしています。

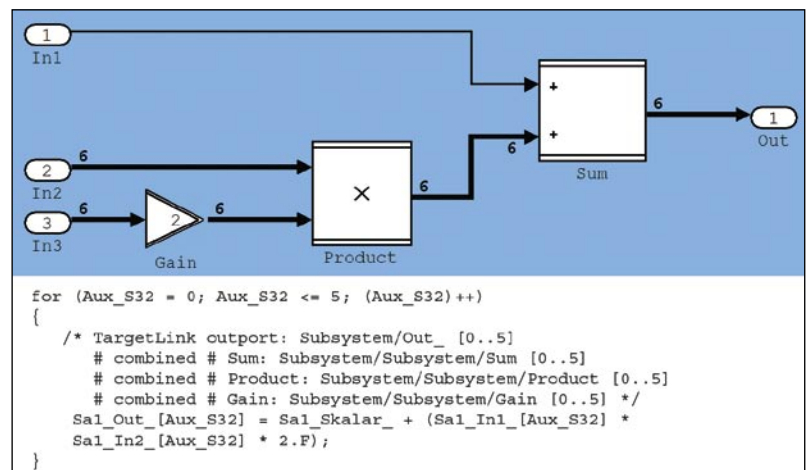
その他の機能強化には、マップ構造なしでテーブルコードを生成するオプションや、dSPACE データディクショナリオブジェクトが名前変更または移動された場合の参照の自動修正などがあります。また新バージョンでは、Infineon 社の XC2000 プロセッサのターゲットシミュレーションと TASKING コンパイラの組み合わせがサポートされます。

➤ 効率的なベクトル信号コード

➤ 最新 AUTOSAR のサポート

➤ MATLAB バージョンの柔軟な選択肢

**AUTOSAR**



▲ TargetLink 2.3 では、ベクトル信号を含むブロックに対して生成するコードをループにすることができます。